

おおもりにけんいち  
脚本・監督 **大森研一さん** ~インタビュー~

昭和50年愛媛県生まれ。映像作品を数多く製作し、国内で多くの受賞歴を持つ。

作品には、長編映画「ライトノベルの楽しい書き方」を始め、「瀬戸内海賊物語」、「ポプラの秋」、「海すずめ」などがある。

また、三原城築城450年というのは三原での映画撮影を決断する大きな要素でした。

その後は、地元の有志の皆さんにより「三原映画をつくる会」が結成されるなど、三原の映画を作るといふ気運が高まったこと、会の皆さんの映画作りへの熱意を何とか形にしたいという思いから、三原を何度も訪れ、映画作りの準備を進めてきました。

平成26年に公開した映画「瀬戸内海賊物語」の一部を佐木島で撮影するために三原を訪れたとき、後に結成される市民グループ「三原映画をつくる会」のメンバーがロケ地を案内してくれました。その道中「三原を舞台に映画を作ってほしい」と打診されたのが映画作りのきっかけでした。

**三原で映画を撮影するきっかけは**

三原を舞台にした映画「やっさだるマン」の撮影が6月27日〜7月6日、市内各地で行われました。メガホンを取った大森研一監督に、映画製作のきっかけや作品に込めた思いなどをお聞きしました。

**オール三原ロケ映画「やっさだるマン」**  
**来年春頃に市内で上映を予定**

**どのような場所でロケを行いましたか**

私は映画を撮影するときに、その土地の美しい景色を取り入れるようにしています。三原では、筆影山からの多島美、三原港からの夕日、道の駅から見渡せる景色などを撮影しました。

**映画を通して、何を伝えたいですか**

この映画には市民エクストラによるダンスシーンがあります。練習日数が短かったにも関わらず、ダンスの完成度は高く、圧巻でした。撮影を通して、市民の皆さんの力を私は感じました。この映画を見た皆さんにも、その力を感じてほしいです。

**やっさだるマン**  
題字:藤村満恵

●ストーリー  
市の公式マスコットキャラクター「やっさだるマン」を盛り上げようと、三原城築城450年を機に若者たちが奮闘する青春ストーリー。

●出演  
佐藤永典  
須藤茉麻  
竹達彩奈  
宮川一朗太  
野々村俊恵  
清水美沙  
目黒祐樹

